

## 道路整備

村上市荒川地区と山形県南陽市を結ぶ地域高規格道路「新潟山形南部連絡道路」は、「荒川道路」と「南陽道路」が三月下旬に開通いたします。今後は「鷹の巣道路」の工事が本格化しますので、できるだけ早く完成するよう関係市町村とともに、要望活動を展開してまいります。

ただ、国の地方分権推進委員会の昨秋の勧告案では、国道一一三号の国直轄区間が新潟県と山形県に移管されるのではないかとの情報もたらされたため、新潟山形南部連絡道路建設促進期成同盟会を舞台に、従来どおり国の直轄事業として進めてもらいたいという要望を精力的に展開してまいりました。しかし、余談を許さない状況にあります。今後とも要望活動を行い、一時も早く区間の整備が進むように努めたいと思います。

県管理となっている国道二九〇号については、山本地内の工事が進められており、早期完成を期待しています。県道大栗田越後下関停車場線の蛇喰地内改良などについて

も、県に対し早期事業化をいっそう働きかけます。

各集落からたくさんの方々の要望があります。村道の改良や消雪パイプの改修について、真に必要な箇所の整備を財源の許す範囲で実施してきましたので、今年度も主として補修的な部分改良を実施することになりました。

## 生活環境の整備

下水道では、特定環境公共下水道事業の工事が二十年度で概ね完了します。今後は農業集落排水とともに、いっそう加入促進を図り、経営の改善に努めます。

また、合併処理浄化槽の設置区域についても、希望され

## 路線バスは 10月から 試験運行開始

来春四月の小学校の統合に伴う児童送迎については、庁内において鋭意検討を進めてまいりました。その結果、経



現在運行されている路線バス

費、利便性などを考慮し、現行の路線バスのルート見直し、新ルートの追加運行、さらに乗車定員を超過する場合には既存のスクールバスを加えるなどして対応することになりました。小学校児童、中学校生徒のほか一般利用者も利用できる路線バスとなりますので、十月から試験運行を開始し、問題点を改善して来春の本運行に備えます。

なお、児童・生徒の乗車料金については、一定のルールを定め、村が全額負担することとしています。

大切な足となっている米坂線の活性化については、米坂線整備促進期成同盟会を舞台に、利用促進につながる活動を引き続き展開いたします。

る世帯への補助金交付を行い、水洗化を進めます。

## 防災・交通安全・防犯

交通事故による死者は、全国的にみて年々減少しています。村内でも交通安全協会や交通安全指導員の皆さんの活発な活動や、村民の意識向上などによって減少しています。

しかし、交通事故はゼロを目指すべきものであり、今後も関係団体などと協力し、事故撲滅に向かって啓発活動を実施いたします。

現在、世界で、また国と県で、新型インフルエンザ対策を急いでいます。H5N1型の鳥インフルエンザが、鳥から人に感染し、そして人から人に感染して猛威を振るうことを心配しています。もし日本で爆発的に発生した場合、国の試算では人口の二五%が感染し、最悪の場合六十四万人の死亡者が出るとしています。発生すると、医療機関はもちろん、交通、通信、輸送、行政、基幹産業など社会全般が麻痺状態となり、大混乱になる恐れがあります。

村としても、感染予防対策や最悪のケースでの生活維持

など、行政として行動計画を速やかに策定し、村民への啓蒙と訓練を積み重ねておきたいと思っています。そのため、保健衛生部門と危機管理・防災部門を中心とした全庁的な検討グループを立ち上げ、村の行動計画づくりを進めることとしています。

## 災害に強い 村づくり

### 防災無線の デジタル化に着手

平成十八年度に各集落にお願いして「集落防災計画」を策定しました。それを基に、自主防災組織育成指導要綱による「自主防災会」の組織化を進めています。すでに設立された十七集落の自主防災会では、自主的に避難訓練を実施し、成果を挙げています。今後は、まだ設立されていない集落への働きかけを行い、組織化に努めます。

災害対策基本法に基づく「関川村地域防災計画」は、平成十六年度に決定したものであり、その後に県内で発生した地震や洪水などを踏まえ、

### 村と村民の協働

自立を推進するうえで「協働」は大きな要素であります。しかし、行政からの提案にはおのずと制約が感じられ、具体化できないままになっていきます。村民の皆さんに理解していただき、地域活力の増進や地域の連帯、地域環境の改善などに関して自発的な提案と取り組みが始まるよう、機運醸成に努めていきます。

### 地域間交流と交流居住

政府が進めている小学生の農山漁村体験は、地域間交流のチャンスであり、村として

もその受け入れ体制の整備が急務であります。

都市と農山村の交流は、過疎化や高齢化が進む地方が、生き残りをかける大きな流れになっていきます。各地の自治体の取り組みでは、空き家の斡旋、農業従事者の受け入れ、都市と田舎の両方を行き来する交流居住などがあります。このように多様化しているニーズにこたえるため、村民の協力を得ながら仕組みづくりを進めたいと思います。

空き家に関する問い合わせは都市部などからあります。しかし、村内の空き家の情報が不足しています。そして、

## 教育・スポーツ・芸術・文化

### 生涯学習の推進

高齢化が進行する中で、村民の皆さんが健康で生き甲斐を持って生活を営むことは重要であり、そのためにも生涯学習は大切であります。学ぶ機会を増やし、指導者の育成を進め、それに応えたいと思います。

### スポーツ振興

ご承知のように、まもなく開会される春の選抜高校野球大会には、村出身のバツテリ一の活躍が期待されていますように、村内の児童・生徒のめざましい活躍は、多くの村民の励みにもなっています。村内スポーツ振興のために、今後とも関係団体との連携を深め、指導者の確保、施設の有効利用などを進めます。

### 芸術・文化

国重要文化財・渡邊邸は、文化庁、新潟県、そして村の支援により、足掛け6年間の計画で大規模修復工事をする(6ページへつづく)

## 首都圏との

## 多面的な交流を

「いで湯の関川ふる里会」は、今年二十七年目を迎えます。首都圏在住関川村人会とともに、村の力強い応援団であり、ふるさと納税でも大いに貢献いただいております。このふる里会が縁となって、千葉県印旛村の直売所に関川



いで湯の関川ふる里会首都圏交流会 (2月22日・東京上野精養軒)

村の産物を販売したり宣伝していただくことができたり、

思いがけない進展も見られており、今後とも大切にしたいと思っています。すでに進めている人口百二十万人の「さいたま市」とは、つながりもいっそう深まっており、なかでも緑区、岩槻区などの交流が進んでいます。この交流が村の宣伝だけでなく、物産の販売、相互往来など多面的な交流に発展するよう、今後ともその推進に努めます。

改定作業を進めています。新年度の早い時期に防災会議を開催し、災害発生時に的確に対応できる計画を決定したいと考えています。



下関集落自主防災会の避難訓練

防災情報や村政の情報などを伝達する広報無線設備は、設置以来二十数年が経過して著しく老朽化が進み、どうか現状を維持している状況にあります。防災広報無線は必要不可欠でありますので、二十一年度から二か年の継続事業として施設設備の更新を行うことにしました。

